

おわりに

年中児の女兒二人が、「プレイルームでコンサートをします。時間がなければいいんですが、時間があれば見に来てください」と、職員室に来て、私を誘いました。

行ってみると、大型積み木でステージや客席がすでにできあがっていました。

「先生、ここにすわって」と案内されると、なんと背もたれのある椅子でした。（背もたれは、積み木を縦に長く立てたもの）もう始まるかとわくわくしながら待つのですが、「しばらくお待ちください」の司会の言葉。年長組のお客さんと呼ばれているのです。「まだですか～」と急がしますが、「しばらくお待ちください」の再度の返事。

いよいよ、始まる。舞台には演奏家が6人並ぶ。まず、楽器紹介。タンブリン、鈴、カスタネットを自分たちで紹介する。ピアノ伴奏で、「こぎつね」。これは、12月の歌。次に、カセットテープ係の男児が操作するラジカセから流れる「さんぽ」に合わせて、合奏が始まる。思い思いのリズム打ちではあるが、よく揃っている。最後は、楽器を振りながら終わる。

子どもたちは、見事に「もの（楽器や大型積み木）」を遊びに取り入れながら、それぞれの思いを表現しています。11月に実施したおたのしみ会での年長児の楽器を使った合奏の発表に憧れをもち、自分たちもやってみたいという思いを持続させながら練習してきたようです。まとめ役のA児は、楽器紹介の仕方を工夫したのですが、自分の思いが通らなかった不満があったようだと言いました。そんな中でも、それぞれの子どもたちが、「人」や「もの」とのかかわりで、自分らしさを発揮してきています。

2年次の本年度は、子どもが「もの」とかかわる姿を三つにまとめ、それぞれの段階での《保育者の援助の在り方》や《環境構成の工夫・改善》について研究を進めてまいりました。明日からの保育に生かせないかと考え、冊子を作成しました。

皆様にとって、本日の公開研究会から一つでも収穫があれば幸いです。

平成21年2月7日

副園長 石原 義仁

研究同人

園長	今林 俊一	副園長	石原 義仁
教諭	味園 佳奈	教諭	内田 真紀
教諭	池島 加那子	講師	松野下 倫代
講師	坂元 久美子	講師	鳩宿 恵理香
講師	谷山 佳奈		
(養護)			

旧同人

講師	成川 梨恵	講師(養護)	山口 尚子
----	-------	--------	-------